

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	① 本校の教育活動に満足している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。	① 基礎基本の充実と深い学び及び心身の健全育成のための諸施策を充実させる。	A	A	A	○本校の教育活動に対し、「満足している」と回答した生徒は90%、保護者は92%に達した。この結果は、日々の教育実践が、生徒・保護者の期待に概ね応えられていることを示している。さらなる教育活動の充実を図っていきたい。 ○学校生活の充実度は94%に達した。継続的な授業改善と、生徒の主体性を引き出す行事運営が満足度の土台となっている。この良好な流れを継続し、教育活動のさらなる充実を図っていく。 ○本校の教育活動を通じて「主体性が育っている」という回答は、生徒89%、保護者83%であった。生徒自身が感じている成長の手応えは、保護者へも概ね届いているといえる。今後は、生徒が自ら考え行動する様子や、前向きな姿勢の変化について、より丁寧な情報発信に努めることで、この実感もさらに共有していきたい。	・SAH指定校としての取組が学校全体の活性化につながっているように感じる。いずれの項目においても高い数値を示しており、教育活動が充実していることがうかがえる。今後、県の指定校から外れる中で、その真価が一層問われることになると思う。 ・教員、保護者による工夫と連携がなされていること、それを受ける生徒の満足度も高いことがうかがえる。前橋南高校らしい取組が継続されており、充実度が高い様子が見て取れる。	
		② 学校生活が充実していると感じている生徒が80%以上である。	② 授業や行事に生徒が主体的に参画できるような環境作りや工夫を進めるなど、支援体制の強化を図る。	A	A	A			
		③ 本校の教育活動を通じて主体性が育っていると感じる生徒が80%以上である。	③ SAH (Student Agency High School) 事業の趣旨を踏まえつつ、本校生徒の主体性を高める様々な取組(授業、学校行事、部活動等)の体系化・深化に努める。また、生徒の主体性を発揮できる環境整備を更に進める。	A	A	A			
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④ 授業毎のねらいを掴み、主体的・協働的な学びから、学習理解が深まったと考える生徒が80%以上である。	④⑤ 生徒の知的好奇心を刺激し、意欲的に学習する姿勢を確立することができるように、各教科における更なる授業改善を進める。また、ICTの活用と協働学習を推進していく。	A	A	A	○保護者対象の公開授業や教員の相互授業参観を通して授業改善を進めてきた。今後も、単なる知識の習得に留まらず、生徒が「自ら考え、判断し、行動する」過程を重視した授業づくりを追求し、生徒一人ひとりの成長を支えていく。 ○授業に「満足している」と回答した生徒は88%に達した。これは、各教科担任による授業改善が、生徒の学力向上と主体的・対話的で深い学びを支える成果として表れたものと評価できる。この高い満足度を維持・向上できるよう、今後も学びの深化と個別最適な学びの視点から更なる授業改善を推進していく。 ○授業アンケートや教員間の相互参観を通じ、効果的な指導法の研究を進めた。生徒が自律的に学べる環境をより多く創出できるよう、引き続き職員間での知見の共有に努めていく。 ○授業や補習、課題等に「積極的に取り組んでいる」と回答した生徒は88%、保護者は77%であった。今後は、生徒が自律的に学びをマネジメントできる力を養うため、職員間での実践事例や知見の共有を一層強化していく。 ○授業以外の学習時間が1日平均2時間以上であると回答した生徒が65%、保護者は56%であった。家庭学習の充実と結びつく授業展開の工夫に加え、個別面談等によるきめ細かな支援をさらに充実させ、生徒が確かな学力を身に付けられるよう取り組んでいく。	・授業に対する満足度の高さは、生徒の探究心や好奇心を引き出す教師の指導力が適切に発揮されていることを示している。 ・学習時間の指標は「学力が身に付いたか」を直接判断することが難しいため、「学力が身に付く環境や学習への姿勢が整っているか」を捉える観点として適している。今後、理解度や活用力といった成果を測る指標が併せて設定されることよい。 ・授業には満足しているが学習時間には反映されていない。学習時間も含めた学習体制が図れるとともに良くなると思われたい。 ・学習計画の立案やふりかえりを支援する指導を強化し、意欲が継続できるようにしなければ良い。 ・生徒の学びが学習時間の長さとう関わっているのかを見極めた上で、短くなっていることがどのようなところに影響されているのかを考えられたい。	
		⑤ 授業に満足している生徒が80%以上である。	⑤ 認知能力と非認知能力の両方を育成する効果的な教授法についての研究を推進する。また、課題を選択する機会を増やしたり、問題を生徒が個別に選択する他、「Classi」のAIを駆使した「個別最適課題」の活用、自主学習を促進する。	A	A	A			
		⑥ 生徒の主体性を育てる授業や補習、個別最適化した課題等に積極的に取り組んでいる生徒が80%である。	⑥ 新教育課程、新入試の研究を深めつつ、生徒の進路実現に耐える学力の向上を目指し、授業や補習、課題等の内容の充実を図る。	B	A	A			
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦ 学力向上のため、各教科の授業や補習、課題等に積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	⑦ 生徒の授業以外の学習の実態を把握するため、定期的な学習時間量調査や個別面談を行うなど、家庭学習についてのアドバイスやサポートを充実させる。	B	A	B			
		⑧ 生徒の1日平均の授業以外の学習時間が2時間以上である。	⑧ 生徒作成の「身だしなみルール」に基づき「セルフチェック」を実践している生徒が80%以上である。	⑧ 生徒作成の「身だしなみルール」により、従来の「検査的」な服装髪型指導を脱し、生徒が自分を律する「身だしなみのセルフチェック化」を推進していく。	B	A			B
		⑨ 生徒作成の「身だしなみルール」に基づき「セルフチェック」を実践している生徒が80%以上である。	⑨ マナーアップ運動、交通安全教室を核に日常の様々な機会を捉えて、思いがけない事故が深刻な結果につながる可能性があるという認識と交通ルール・マナーの遵守意識を高める。	B	A	B			
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑩ 交通ルール・マナーを守ろうと心掛けている生徒が80%以上である。	⑩ 生徒の自主性を育てるとともに、達成感や自己肯定感をもたせられるよう顧問がきめ細かな指導を行う。「生徒の主体性を発揮できる部活動」を更に促進していく。	B	A	B	○身だしなみルールに基づくセルフチェックを「実践している」と回答した生徒は88%、保護者は84%と、概ね良好な結果であった。生徒が自律的に自身の身だしなみを整えられる「自己管理能力」の育成を目指し、継続的な指導に努めていく。 ○交通ルールやマナーを「守っている」という肯定回答は、生徒81%、保護者83%と概ね高い水準だった。一方で、一部の生徒・職員からはヘルメットの未着用や一時不停止の危険性を指摘する声も上がっている。生徒同士が自他の安全のために互いに声を掛け合える「当事者意識」の育成を重視した安全指導を推進していく。 ○部活動が充実していると感じている生徒は84%であった。生徒の高い意欲を活かしつつ、部活動の教育的価値を高められるよう支援を継続している。	・交通ルールやマナーは、自転車利用者に限らず、自動車の運転者も含めた恒久的な課題であると感じる。免許取得が間近に迫った高校生だからこそ、運転者の立場に立った視点で考えることも有効である。 ・不安定な心理状況が表に出にくい近年の中高生にとっては、いじめに限らず、悩みを安心して相談できる環境づくりが重要であると感じる。SNSに過度に依存しないSOSの出し方や受け止め方を学ぶ教育が、今後の教育活動に求められている。	
		⑪ 部活動が充実していると感じている生徒が80%以上である。	⑪ 個々の生徒の状況に対応した支援を行い、迅速な対応に努める。	A	B	A			
		⑫ いじめを見逃ごさない環境作りが充実していると感じている生徒が80%以上である。	⑫ 人格の尊重、他人への思いやり など、豊かな人間性の育成を図る。	A	A	A			
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑬ 一人ひとりの人権を尊重する環境作りが充実していると感じている生徒が80%以上である。	⑬ HR、集会等様々な機会に自己管理能力の大切さを生徒に理解させる。遅刻や欠席の多い生徒個々の理由を把握し、担任・学年団・生徒指導部が連携して個別指導に努める。	A	B	B			
		⑭ 1年間皆勤の生徒が25%以上である。	⑭⑮ HR、集会等様々な機会に自己管理能力の大切さを生徒に理解させる。遅刻や欠席の多い生徒個々の理由を把握し、担任・学年団・生徒指導部が連携して個別指導に努める。	A	B	B			
		⑮ 1日平均遅刻者数はクラスで1人以下である。	⑮ 総合的な探究の時間において、学外の機関や地域との連携体制が整いつつある。生徒も高い充実感をもって活動に取り組んでいる。今後は、探究的な学びとキャリア教育をより密接に運動させ、生徒一人ひとりが「自己のあり方・生き方」を主体的に捉えられるよう、指導の深化を図っていく。	B	A	B			
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑯ 「総合的な探究の時間」やLHR等の進路学習の計画が充実していると感じている生徒が80%以上である。	⑯ 自己の適性や進路希望を考えて科目を選択できた生徒は1年83%、2年90%であった。生徒が将来像と現在の学びをより深く結びつけられるよう、キャリア教育の視点を教育活動全般に横断的に取り入れ、推進していく。	B	A	A	○自己の適性や進路希望を考えて科目を選択できた生徒は1年83%、2年90%であった。生徒が将来像と現在の学びをより深く結びつけられるよう、キャリア教育の視点を教育活動全般に横断的に取り入れ、推進していく。 ○探究的な学習への取り組みや各種講演会をとおして自己理解を深めつつ、生徒が主体的に進路実現に取り組めるよう支援する。	・大学の全入時代、さらには早期転職率が高まっている現代において、『自己の在り方・生き方』への探究に、高校入学後から系統的かつ教科横断的に取り組まれている点は、大変意義深いと感じる。 ・進路の意思決定・実現のために今後も連携体制の強化を望む。また、大学進学をしない生徒に対しても分け隔てなく寄り添っていただきたい。 ・生徒自身の希望に照らした教育をすすめる工夫がなされていると感じる。	
		⑰ 1年生3学期の段階で、自己の適性を考えて文理選択をできた生徒が80%以上である。2年生3学期の段階で、進路希望を考えて科目選択をできた生徒が80%以上である。	⑰ 探究的な学習への取り組みや各種講演会をとおして自己理解を深めつつ、生徒が主体的に進路実現に取り組めるよう支援する。	B	A	A			
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑱ 定期的な学年通信等を発行し、学年通信等に目を通した保護者が80%以上である。	⑱⑲ 生徒の活動の様子をきめ細やかにかつ積極的に地域社会へ発信する。保護者への連絡を密にして必要事項の周知を図るとともに、本校の教育活動を伝えていく。	A	A	A			
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑲ 定期的な学年通信等を発行し、学年通信等に目を通した保護者が80%以上である。	⑲⑲ 生徒の活動の様子をきめ細やかにかつ積極的に地域社会へ発信する。保護者への連絡を密にして必要事項の周知を図るとともに、本校の教育活動を伝えていく。	A	A	A	○情報発信に対する肯定的な回答は、生徒・保護者ともに90%を超えた。日々の活動風景など、より具体的な様子を共有することで、学校の取組をより身近に感じられる広報を継続していく。	・生徒・保護者の90%が肯定的であり、情報発信が量から質として受け止められている証かと思う。行事報告、教育活動のプロセスを見せる広報活動になっていると思う。作成側は大変だが効果は出ている。 ・情報発信に対して、受け止める側の意識も好転してきているように感じる。	
		⑳ 一斉メールやWebページの情報提供に満足している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。	⑳ 授業でのICT機器の効果的な活用を学校全体で推進する。また、学習用端末を利用した連絡や課題の配付と提出を積極的に取り入れる。「Classi」を利用した自主学習を更に促進する。	A	A	A			
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉑ 学習用端末やICT機器を活用した指導を行い、ICT機器を積極的に学習活動に利用していると答えた生徒が80%以上である。	㉑ 授業でのICT機器の効果的な活用を学校全体で推進する。また、学習用端末を利用した連絡や課題の配付と提出を積極的に取り入れる。「Classi」を利用した自主学習を更に促進する。	A	B	A	○ICT機器の活用については、今後も学校全体でより効果的な手法の検討を継続していく。肯定的な回答は生徒で88%に達している一方、保護者は65%であった。学校での活用状況が家庭に十分に伝わっていない状況がうかがえる。今後は、授業での具体的な活用場面を紹介するなど、デジタル化の現状が伝わるよう広報活動を充実させていく。	・教育、学習面において、デジタル化はあらゆる面で万能ではないと考えられることから、今後も適度な導入と活用を進められたい。 ・保護者の目には届かない部分も多く、丁寧な発信が大事である。どの強化でどのような場面で、学びにどうICTが寄り添っているかを知らせることが必要である。	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉒ 学校が積極的にICTを活用し、教育活動の効率化を図っていると答えた回答者が80%以上である。	㉒ デジタル機器を活用するための研修なども含めて、学校全体の効率化を目指し、デジタル環境を整備していく。	A	B			A